

コロナ禍の中でのオリンピックと文化

千西一遇

第72号
発行
2020年
10月30日(金)
上田西高校
新聞委員会
編集局
編集局長:堀内日菜子
新聞委員長:橋爪ここ葉
生亀 亜実
稲津 そよ



東京2020
NIPPON
フェスティバル

東京2020NIPPONフェスティバルのロゴ 写真=東京2020NIPPONフェスティバルホームページより

また、身近な地域の文化にも様々な背景があるので、自分たちの文化を褒め合うことも大事だ。地域の文化を知り、そして楽しむことが、他の地域の人と接した時に役立つ。文化の多様性を認識することを繋がる。改めて地域の文化を見直してきたい。(稲津 そよ)

人が集い、世界の平和につながるのではないかと。しかし、日本でオリンピックが開催されるといっても、首都圏から離れているところに住んでいる人は身近に感じることができないかもしれない」と青柳氏は語った。そこでNIPPONプログラムが立ち上げられた。このプログラムは、みんなで活動することで、日本の各地の文化を知ることができるほか、世界に勇気と希望の情報を発信することができる。今は、コロナ禍でイベントが縮小されているが、「正しく恐れ、正しく行動することが重要ではないか」と青柳氏は話す。

東京都高等学校文化連盟新聞部門が主催する「青柳正規氏 高校生オンライン取材会」が10月11日(日)に開催された。2020東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会の文化・教育委員長の青柳正規さんにオンラインで全国の高校生が取材を行った。また、青柳正規さんの地元の文化を知り、それを広げることがオリンピックに繋がるとい話から上田の文化についても取り上げた。

現在、新型コロナウイルスの影響を受け、2020年に開催されるはずだった東京オリンピックが延期された。異例の事態にオンライン中止の声も上がっている。だが、それでもオリンピックを開催しようとする人々はとても多い。オリンピックとはスポーツの祭典であると共に文化の祭典でもある。つまり、日本の多様な文化を世界中に発信する大きなチャンスなのだ。

青柳さんは「スポーツで競い合うことが世界の平和に繋がって、それぞれの地域が持っている文化を見直し活性化させることで日本各地もオリンピックに参加したことになるのではないだろうか」と語った。そして、日本の文化を広めるため「Looming of cultur

の文化は、出会いから花開く」というプログラムを検討している。現在、コロナ禍で伝統的な大きな行事は開催が難しい。しかし、専門家の言うことを信じ、範囲を絞りながらも社会活動を止めない。これが今私たちに求められることである。(生亀 亜実)

上田市の天正11年(1583)に真田昌幸によって築城された上田城がある。関ヶ原の合戦後、破却された上田城は仙石氏が城主の時代に再建され、7基の櫓と2基の櫓門が建てられた。明治維新後、西櫓1基を残しそのほかの櫓・櫓門は取り払われてしまった。城外に移築された。城外に2基の櫓は後に買い戻され、昭和18年から24年

に掛けて現在の南櫓・北櫓として再構築された。平成6年には東虎口櫓門が復元された。春は上田千本桜まつり・秋には上田城紅葉まつりが行われ、信州上田の主たる観光地としてにぎわっている。桜に映える姿、紅葉に映える姿、月夜に映えるライトアップされた姿、季節ごとに趣を変え、この姿も荘厳で圧巻だ。徳川軍を2度にわたって撃退した上田城は上田市民の誇りである。(稲津 そよ)

上田市民の誇り、上田城



真田氏によって築城された上田城の正門 写真=上田市ホームページより

上田市民の誇り、上田城。上田市の天正11年(1583)に真田昌幸によって築城された上田城がある。関ヶ原の合戦後、破却された上田城は仙石氏が城主の時代に再建され、7基の櫓と2基の櫓門が建てられた。明治維新後、西櫓1基を残しそのほかの櫓・櫓門は取り払われてしまった。城外に移築された。城外に2基の櫓は後に買い戻され、昭和18年から24年

連もあり見る人を楽しませる。また、近辺の学校からの生徒の参加もあり、参加する側も見物する側にとっても非常に思い出に残る行事である。まだまだ市民祭としては歴史が浅いが、多くの市民に親しまれる立派な伝統である。現に参加する学生のほとんどは大きな節目の記念として参加する機会が多くそういった面においても市民にとっても親しまれた行事といえるだろう。今年も残念なこと中止となってしまったが、来年以降も大きな盛り上がりを見せるだろう。(生亀 亜実)

NIPPONプログラム始動

10月11日(日)にオンラインで青柳正規氏に取材を行う機会を得た。「例えば、オリンピックは世界各国から人が集まってくるので様々な文化をもつ人が集い、世界の平和につながるのではないかと。しかし、日本でオリンピックが開催されるといっても、首都圏から離れているところに住んでいる人は身近に感じることができないかもしれない」と青柳氏は語った。そこでNIPPONプログラムが立ち上げられた。このプログラムは、みんなで活動することで、日本の各地の文化を知ることができるほか、世界に勇気と希望の情報を発信することができる。今は、コロナ禍でイベントが縮小されているが、「正しく恐れ、正しく行動することが重要ではないか」と青柳氏は話す。



上田の伝統行事「上田わっしょい」の様子 写真=上田市ホームページより

長野県上田市には「上田わっしょい」という伝統行事がある。毎年7月最終土曜日もしくは8月の第1週に上田市中心商店街で開催される市民祭である。東信地域では最大のイベントであり、1972年に開始され、2019年まで途切

五輪を文化発信のチャンスに。10月11日(日)、東京都高等学校文化連盟新聞部門の主催による「青柳正規氏 高校生オンライン取材会」が開催された。その中で青柳さんが強調していたのはオリンピックについては、現在、新型コロナウイルスの影響を受け、2020年に開催されるはずだった東京オリンピックが延期された。異例の事態にオンライン中止の声も上がっている。だが、それでもオリンピックを開催しようとする人々はとても多い。オリンピックとはスポーツの祭典であると共に文化の祭典でもある。つまり、日本の多様な文化を世界中に発信する大きなチャンスなのだ。

上田の伝統行事「上田わっしょい」